

尾道新工場 来年1月から稼働

加工・置き場能力を拡充

Hグレードファブリケーターの三和鉄構建設（本社・広島県尾道市、社長・中島秀晴氏）が建設を進めていた尾道新工場の建屋が完成、今月末から加工設

備を入れ始め、来春1月からの操業開始を目指す。現行の福山工場（広島県福山市）の老朽化や製品ヤードの手狭さの解消が喫緊の経営的課題となっていたが、適地購入を機に新工場建設へと踏み切った。福山工場の鉄骨加工機能・人員を移し、新たな設備も導入すること、初年度で生産性を10%程度引き上げる方針だ。

新工場の立地場所は（尾道市御調町平木）は中国横断自動車道の尾道北ICから車で15分の距離。昨年末に敷地面積47876平方メートルを取得し、建屋面積8206平方メートルの1棟を建設。建屋は新日鉄住金エンジニアリングの独自システム建築「スタンパッケージ」

で建設。構内を製造ラインで分け、北側が柱加工用、南側が梁加工（3700平方メートル）に使用される。天井高さは12メートルと構内の熱気も整地すること、がこもりにくく、LED照明の採用で作業員の負担軽減を図る。加工後の製品は建屋と平



来年1月稼働予定の尾道新工場

新設備は

建築物大型化への対応力強化に主眼が置かれ、鉄骨大組溶接ロボット、コア溶接ロボット、オートボーラーを各1基、10トクレーン6基などを導入する。

700角サイズ以上のコラム加工は外注や特別なプログラム変更でしのいでいた分、コスト低減が図れる見込み。福山工場からは孔開け・切断ライン、溶接ロボット、開先機、シヨットブラストなどを移設する。

設備の直線的配置、製品ヤードの十分な確保で、これまで生産性を下げていた主要因の横持ちロスが解消される。足元の受注状況は病院、介護施設、プラント関係などで、旺盛な鉄骨需要に対応。現在の福山工場の年間生産量約6600トから、新工場立ち上げ以降は設備習熟度の向上を図りながら、生産能

力を引き上げたい意向。習生の合計45人体制から、現場の陣容は作業員35人とベトナム人実務者を採用し、50人規模とする。福山工場跡は賃貸か売却の方針。

